

## 令和5年度 授業改善推進プラン 外国語科

外国語科では、

「実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な知識・技能を身に付ける。」

「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、話題を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。」

「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。」ことを目標とする。

5年

【知識・技能】

アルファベットは、指導途中である。ローマ字の学習を通してある程度書き慣れてはいるものの、4線を意識した書き方や、アルファベットの音と文字の一致についてはまだ誤りが見られる。

【思考・判断・表現】

自己紹介などの身近で簡単な事柄について自分の思いや考えを伝える際に、内容の詳しさや順番を工夫することが求められている。それをふまえて表現しようとする児童がいる一方で、自力では、その工夫が難しい児童もみられる。

【主体的に学習に取り組む態度】

子どもたちは、その時々学習に意欲的に取り組んでおり、自己紹介では、より良いコミュニケーションを図ろうと、活動することができた。しかし、自らの課題を把握して解決し、より高いレベルの学習に取り組もうと、粘り強く取り組む態度が見られたのは、一部であった。

6年

【知識・技能】

アルファベットの大文字や小文字を正しく書くことは、目標値及び全国平均を上回ったが、音声を聞きとって書くことは下回った。単語の意味理解は、目標値を上回った。

【思考・判断・表現】

日常会話の基礎理解は、区や目標値および全国平均を上回ったが、時刻に関わる会話の理解は、それをやや下回った。身近な人の続柄やできること、道案内について、視覚情報や例文をもとに言葉を選んで書く英作文では、区平均は上回ったが、目標値や全国平均には及ばなかった。

【主体的に学習に取り組む態度】

学習目標にそって自分の思いや考えを伝えようとしている。しかし、学習した表現も生かして伝えようとする様子は一部児童に限られる。

## ②授業改善策

- 5年
- ・アルファベット学習を定期的に行い、語順や4線での文字の大きさ、発音を理解できるようにする。
  - ・音声で慣れ親しんだ言葉と読みの一致の手立てとして、フォニックスの学習を定期的に行う。
  - ・教科書の音声や外国語教育指導員の発話を聞いて、日常生活に関する目的や場面状況などを推測する活動を継続する。
  - ・第3、4学年で学習した簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し、定着を図る。
  - ・順番や内容の工夫をしながら、身近で簡単な事柄について自分の思いや考えを伝える活動を増やす。
  - ・学習のめあての明確化や振り返り活動を継続する。児童が学習の見通しを立て、自分の学びを振り返りながら、活動を進める態度を養うことを目指す。

- 6年
- ・アルファベットの読みの復習を行う。
  - ・音声で慣れ親しんだ言葉と読みの一致の手立てとして、フォニックスの学習を定期的に行う。
  - ・教科書の音声や外国語教育指導員の発話を聞いて、日常生活に関する目的や場面、状況などを推測する活動を増やす。
  - ・中学校での英語学習に向け、音声で十分に慣れ親しんだ言葉や文章を書いたり読んだりする機会を増やす。
  - ・これまでに学習した英語表現を用いた会話活動を計画し、活用の仕方を理解させるとともに、学習内容の定着を図る。